

ふるさとの民話 (第五十話)

『「ところ」のごんざんさ』

「山芋」によく似た「ところ」というものがある。「山芋」と違い、山のどこにもあり、また、掘りやすい。

飯川に、「ごんざん」という男がいた。足まめに山に通い、「山芋」を掘ってきていた。

「おやっさん、今日も、でっかいこそ、掘ってきたね。」

「いやいや、たくさんあってね。」

毎日、毎日、あまりにたくさん掘ってくるので、村の人たちも不思議に思った。そこで、ほめ方々、掘ってきたものをよく見ると、「山芋」ではなく、「ところ」であった。

この話が広まると、違っているのに本気でやることを、

『「ところのごんざんさ』みたいなことをやるな。」

というようになった。



(若林町 伝承 武内喜男 集録)

→